

持続可能な一貫教育をすすめる ための工夫と校長の役割

飽海小学校長会
連携・接続専門委員会



小中一貫教育推進のねらい

教育委員会と校長会のコラボレーション

- 学力
- 学習意欲
- いじめ、不登校
- 自己肯定感

課題解決の手段としての
小中一貫教育



小中一貫教育推進の糸口を探る ～校長たちの本音による小中一貫教育座談会～

中三の姿をとともにめざす

小学校の目線から



- ・ 中三の子をどれだけかわいく思えるか
- ・ 上の学年の姿に対して、かつて指導した教員がどれだけ自分事に思えるか



中学校の目線から



- ・ 小中の課題を共有する
- ・ 課題解決の手段としての小中一貫教育



「つなぐ」をキーワードにした実践



教職員をつなぐ（一中、四中、六中、遊佐中）



子どもをつなぐ（二中、三中、四中）



保護者をつなぐ（鳥海八幡中、東部中）



教職員をつなぐ実践

(一中、四中、六中、遊佐中)

- 共通事項を基本にした研究テーマの設定
- 課題解決に向けた小中の協議会の設置
- これまでの実践のよさをもとにしながら、学習を軸にした取り組みを展開するための会議の場の設定





子どもをつなぐ実践 (二中、三中、四中)

- 生徒会の取り組み、自主学習のマネジメントについて、生徒が児童に指導する。
- 中学生が、小学校の校門前で朝のあいさつ運動を展開する。
- 特別支援学級の児童、生徒が交流することを通じて安心して中学校に進学できるようにする。





保護者をつなぐ実践 (東部中、鳥海八幡中)

ここ10年間で小学校の統合、中学校の統合が行われ、大きく学区再編が行われた地区

○ 小中のPTAが地域の教育力の維持向上をめざし、家庭教育の指標を作成

○ メディアに対する家庭のルールを小中学校の共通の課題ととらえ、中学校区で新たなルールを構築



令和2年 月 日

EM 「我が家のメディア機器活用ルール」報告書

児童生徒名(_____ 小・中) _____ 年 _____ 組 _____
保護者氏名 _____

本家庭では、次のルールについて話し合いの結果、(年組 児童生徒名)用に下記のメディア機器活用ルールを決めましたので報告します。
(必要な場合は、項目数を増やしていただいても構いません。)

ルール1 一日の使用は1時間、休日は2時間とする。

2 夜の9時以降は、部屋に持ち込まないで、居間で充電する。

3、SNSに不適切な悪口やうわさなどを載せない。

上記の約束をきちんとまもることにより、安心安全な生活を送ります。

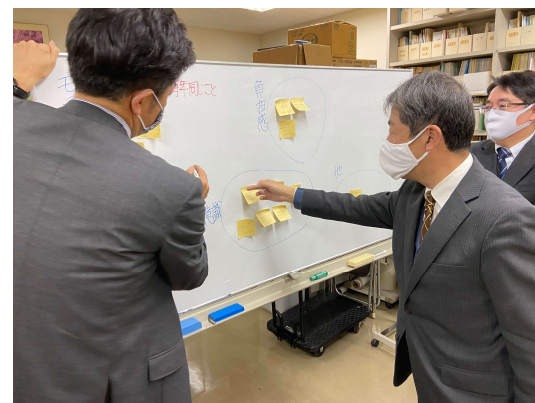
校長の小中一貫教育マネジメント力を磨く

ワークショップによる課題洗い出し

○ 個々のモチベーションを高める。

○ 小ー小、小ー中の連携意識を高める。

○ 負担感を減らす。



校長の役割

○ 課題を明確にし、ねらい、コンセプトを定める。

○ 推進の全体を俯瞰し、価値づけをおこなう。

○ 各中学校区における実践を共有し、行政にも働きかけながら更なる推進を図る。





成果と課題 (○成果 △課題)

- 「学び合い」をキーワードにした授業改善
- 小中の垣根を越えた児童生徒のつながりの強化
- 地域全体としての教育環境に対する意識改革
- △ 小中一貫の取組が、有効かつ効果的であることを検証しながら情報発信することが必要。

